

# 令和5年度「学校における手話及び手話言語条例の普及・啓発事業」の実施報告

## 1 実施状況 計12校

(小学校)

- ・富山市立水橋西部小学校 5年生 24名
- ・富山市立蛸川小学校 手話クラブ 7名
- ・入善町立上青小学校 5年生 28名
- ・氷見市立海峰小学校 1～4年生 37名
- ・富山市立堀川小学校 5年生 102名

(中学校)

- ・南砺市立福野中学校 1年生 102名 保護者 2名

(高等学校)

- ・富山県立小杉高等学校 2年生 23名
- ・富山県立氷見高等学校 3年生 生活福祉課「介護総合演習」選択者 30名
- ・富山県立高岡商業高等学校 3年生 「生活と福祉」選択者 20名
- ・富山県立となみ野高等学校 2年次 総合福祉科「こころとからだの理解」履修者 7名
- ・富山県立志貴野高等学校 3・4年次 8名
- ・龍谷富山高等学校 生徒会執行部 12名

## 2 主な活動内容

- ・簡単な挨拶や自分の名前を手話で表現する。
- ・「手のひらを太陽に」「ビリーブ」等を手話を交えて歌う。等



## 3 活動の様子



## 4 児童生徒の感想

- ・手話を覚えるのは大変だけど、まだ見えない世界が見えてきて楽しかった。
- ・はじめて手話をしました。もし耳が聞こえない人と会っても手話でお話ができるようにもっと手話を覚えたいです。
- ・今日学んだことを家族に話して、テレビの手話ニュースや手話講座でさらに学びたいと思った。
- ・地名は地域の特色（例：上市は電車が折り返す、韓国は兵隊の帽子）が表現されていて、指文字だけではないと分かり、おもしろかった。
- ・手話は、顔の表現で言葉の意味が変わることがあるので表情も豊かにして、コミュニケーションを取ることが大切だと思った。
- ・障害があるかないかに関わらずに、社会全体が平和になれば良いなと思いました。 等